

山口新聞 12/5

「仁保」同士強まる絆

山口と広島2地域住民



広島市の仁保公民館まつりに交流出展した山口市の仁保の郷産直市コーナー(仁保自治会提供)

地元の物産を相互出展 海山の体験交流も検討

山口市仁保地域の仁保自治会(川尻雅男会長)などはこのほど、同じ地名を縁に交流を協議している広島市南区仁保を訪ねた。広島側の「仁保公民館まつり」での物産出展要請に心え特産品を持参して喜ばれ、来年の山口側のイベントには広島が特産のカキを紹介する話がまとまった。

訪問したのは川尻会長ら自治会関係者と道の駅「仁保の郷」の田中義治駅長、仁保地域交流センター囲碁サークルの高木明会長ら9人。仁保の郷は仁保産の新米や青果物、豆腐、手作りシヤムなどを持ち込み、まつりの産直市コーナーに並べ販売したという。

式典に参加した後、仁保公民館の運営の中心となっている仁保郷土史会(灰田靖睦会長)などの関係者と協議。山口側の物産出展に呼応し、来年1月中旬に開かれる道の駅「仁保の郷」のイベントに広島側が特産カキを持ち込むことが決まった。調理師も来て、かき鍋を振る舞う予定という。

囲碁サークルの高木会長らは仁保公

民館の囲碁グループと協議し、交流戦を持つことで合意。公民館囲碁グループは毎年、親睦旅行を実施しているの
で、来年は山口の仁保を訪れて交流戦を行うことを想定する。

このほか、山口の仁保は農山村、広島
島の仁保は海がある地域特性を生かした相互訪問ツアーなども検討。田舎の
スローライフが体験できる山口・仁保
に対し、広島・仁保は離島の似島に臨
海少年自然の家があって海洋体験がで
きるという。

仁保自治会の内田利夫事務局長は
「きっち計画を立てず、お互い緩やかな関係で、できそうな交流から余裕
をもってやる方針を確認した」と話し、
ゆっくりと着実な交流を目指す考えを
示した。

双方の交流は、仁保郷土史会が仁保
の地名の由来を調査していて山口市に
同じ地名があることを見つけ、5月に
探訪調査で山口を訪れたのがきっかけ。郷土史会によると戦国時代、山口
の仁保地区の領主だった三浦元忠が広
島の仁保島を毛利輝元から知行地とし
て与えられ、仁保島城主として仁保
を治めた時期があったという。探訪調
査で山口市仁保下郷の源久寺にある三
浦元忠の墓を訪れた。